

昭和初期のモダン建築物

旧中央警察署

昭和モダンビズムの息吹を伝える建物として市民に親しまれ、保存運動もあつた旧中央警察署について紹介します。

中央警察署は、すすきのや官庁街などの中央区の中心部を管轄しています。昭和九年十一月に札幌警察署として完成した建物は、「さっぽろ・ふるさと文化百選」の一つにも選ばれており、昭和初期を代表する鉄筋コンクリート造りの建築物でした。地下一階地上三階建て一部四階建てで（四階部分は三十三年に増築）、旧警視庁をモデルにしたといわれています。



平成7年当時の旧中央警察署

特徴は、建物の

南東の角に設けられた正面入り口です。曲線で構成されたひさしやその上の壁面、入口の両側には円窓があり、ひさしを支える柱も円柱となっていました。一階事務所室内にも大黒柱のように太い円柱があり、そこから天井を支えるアーチ型のはりがありました。また、外壁には黄褐色のスクラッチタイル（表面がひっかいたような筋模様）が使われており、北一条通に落ち着いた雰囲気を与えていました。

旧中央警察署の建物は平成八年に取り壊されましたが、跡地に建てられた新しい警察署は、昔の建物のイメージを残しながら、近代的な建物として十年十月によみがえっています。



新しくなった中央警察署